

令和7年度 島根県立松江北高等学校 学校評価表（年度末報告書）

教育目標	高い知性と豊かな心情、強い意志を培い、心身ともに健康な人格の形成を目指す。
------	---------------------------------------

重点指導目標 1 健全な批判力の育成

すべての教科の授業、探究活動、学校行事、生徒会活動、部活動などあらゆる場面を通じて、「読む力」「書く力」「思考を広げる力」「伝える力」を育成する。

評価指標 【肯定的評価の割合 生徒：95.1% 保護者：80.4% 教職員:88.6%】

昨年度 【生徒：93.6% 保護者：78.0% 教職員:92.3%】
一昨年度【生徒：92.6% 保護者：78.2% 教職員:88.6%】

	令和7年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
授業の充実	●授業改善 互見・教職員研修の実施 ●ICT活用研修 ●学習支援アプリの活用 ●探究学習の充実 普通科：個人探究 理数科：理数探究	●生徒は、授業で扱う内容だけでなく様々な事柄について、興味や関心を抱き、もっと深く知りたい調べたいと思い、自ら考えたり学んだりしている。 今年度 【 生徒：80.7% 保護者：65.1% 教職員：74.3% 】 昨年度 【 生徒：80.2% 保護者：53.6% 教職員：73.1% 】 一昨年度 【 生徒：82.9% 保護者：56.9% 教職員：68.2% 】 ●生徒は、学校での教科の学習に、意欲的かつ継続的に取り組んでいる。 今年度 【 生徒：82.6% 保護者：72.7% 教職員：91.4% 】 昨年度 【 生徒：82.3% 保護者：68.8% 教職員：82.7% 】 一昨年度 【 生徒：83.3% 保護者：71.2% 教職員：81.8% 】 ●生徒は、学校での教科の学習以外の教育的活動に、積極的に取り組んでいる。 今年度 【 生徒：80.7% 保護者：82.0% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：82.8% 保護者：75.2% 教職員：92.3% 】 一昨年度 【 生徒：85.4% 保護者：77.3% 教職員：88.6% 】 ●教員は、熱意をもって学習指導をしていますか。 今年度 【 生徒：91.5% 保護者：79.4% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：95.4% 保護者：76.6% 教職員：82.7% 】 一昨年度 【 生徒：94.4% 保護者：82.4% 教職員：93.2% 】 ●本校の進路指導は適切である。 今年度 【 生徒：87.6% 保護者：81.2% 教職員：88.6% 】 昨年度 【 生徒：89.6% 保護者：79.4% 教職員：92.3% 】 一昨年度 【 生徒：88.6% 保護者：79.1% 教職員：90.9% 】	○授業改善のため、教職員研修や互いに授業を参観することや授業前後での意見交換などをする呼びかけを行い、授業改善・授業力向上に努めた。今後、各教科内に留まらず教科の枠をこえたところにおいても授業の在り方を考える機会の設定を行うなど、授業改善・授業力向上に向けた機運を広めていく必要がある。 ○全学年において学習支援アプリを導入した。課題としての活用、理解度を図るためのテストの実施、個人の自主学習等で活用できた。活用率は比較的高いが、今後、生徒の学力向上のため、より有効に活用していきたい。 ○生徒の興味関心に基づく探究学習を展開している。探究学習のテーマ設定については、授業での問いかけの工夫や進路希望との関連などを踏まえたあり方の工夫などを行い、より効果的に行っていく必要がある。 ○生徒の主体性を大切にしつつ進路意識の高揚を図るとともに、進路志望実現のために、講座・説明会・講演会・補講などを行った。また、適切な進路指導を行うことができるよう教職員による進路研修会を実施した。 ○社会人講座・卒業生講話など卒業生からよい影響を頂く機会を楽しみにしている生徒も多く、引き続き、卒業生ネットワークを活用させてもらいながらより充実したものにした。 ○主要大学説明会に参加した生徒から、良い機会となったという前向きな意見が多くあった。 ○希望者を対象にした県外他校との交流を立ち上げ、生徒たちのキャリアデザインに対する知識や考え方の深まりを図った。 ○部活動においては、全国大会に出場する部（水泳、ボート、登山、弓道、演劇、合唱、写真、放送、自然科学、囲碁将棋、箏曲、弦楽、百人一首かるた）が多くあった。また、科学オリンピック、弁論大会、研究発表、音楽コンクールなどで全国入賞するなど、個人での活躍も多くあった。引き続き、様々な活動に主体的に取り組む生徒を後押ししていきたい。 ○課外活動に積極的に参加する生徒が多かった。引き続き、各種イベントやコンテスト等への参加について、ICT機器や担任から積極的な参加を呼びかけ、生徒の多様な経験と挑戦の後押しができるよう心がけたい。	○近年の傾向として基礎学力の低下が指摘されている。学びの方法についてはいろいろあるが、まず基礎学力をつけるという視点を大切にしたい。 ○生徒が自ら学びたい・学び続けたいと感じ、実践できるようなあり方を探るため、教員のみならず生徒も含めてともに考えることが必要である。 ○課外活動への積極性に関する生徒の肯定的評価は下がっているものの、8割以上は該当しており、1つ1つの活動の充実具合は上がっているケースも多い。主体的な活動を把握し、普段の学習意欲の向上につながるとうよい。
キャリア教育の推進	●社会人講座・卒業生講話・出前講座 ●志望校別集会 ●国立大学・著名私立大学説明会参加 ●オンライン進路講演会 ●希望者補講 ●研修旅行 ●進路指導校内研修会	●生徒は、他人を思いやる心を持って人に接することができる。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：87.9% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：96.0% 保護者：80.8% 教職員：86.5% 】 一昨年度 【 生徒：94.4% 保護者：90.0% 教職員：70.5% 】 ●生徒は、多様な価値観を認め、豊かな人間関係を築くことができる。 今年度 【 生徒：93.7% 保護者：85.1% 教職員：88.6% 】 昨年度 【 生徒：93.3% 保護者：86.2% 教職員：96.2% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：84.1% 】 ●生徒は、人権が保障され安心して生活できる学校である。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：84.0% 教職員：85.7% 】 昨年度 【 生徒：93.6% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 ●生徒は、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度 【 生徒：71.7% 保護者：62.8% 教職員：77.1% 】 昨年度 【 生徒：68.3% 保護者：60.4% 教職員：80.8% 】 一昨年度 【 生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9% 】	○いじめアンケートを各学期行い、いじめの早期発見に努めることができた。また、アンケート後にいじめもしくはいじめにつながるような言動に対する迅速な対応ができた。次年度も、学校全体の取組としていじめの防止及び発生時の対策にあたるため、いじめ防止対策委員会をしっかりと機能させたい。 ○人権教育に係るHRや講演会、研修会を年間計画に基づいて実施し、人権意識の醸成の一助となった。また、教職員向けの研修も実施し、教職員自身の人権感覚を向上させることができた。引き続き、生徒の実態把握に努め効果的な年間計画のもと取組を進めていきたい。 ○HRや学年会等での働きかけとともに、授業や学校行事を含むあらゆる教育活動において人権意識の醸成に努める。 ○今年度から週1回の学年会に保健部が参加して保健部と担任（学年会）と間で情報交換を行い、生徒の心身の状況把握と情報共有をすすめた。 ○生徒支援委員会・特別支援委員会を定期的に開催し、不登校等の問題を抱える生徒への支援に学校全体で取り組めた。またSCやSSWとの連携を図って対応することができた。 ○普段から生徒の様子を観察し、必要に応じて個別面談を行い、生徒の状況を把握した上で関係部署と連携しながら対応することに努めた。引き続き、丁寧な対応を行っていき	○相談のしやすさに関する生徒の肯定的評価の割合は年々増加して7割を超えているが、効果が上がっている理由について整理し、よりよくなるように活用するとよいのではないかと考える。 ○肯定的評価の割合が9割を越える項目も多いが、クラスがクラスとして学ぶ集団になっているかという視点を忘れず、学級経営のあり方等について話し合う機会があるとよいのではないかと。
課外活動の活性化	●生徒会活動の活性化 ●部活動の奨励 ●各種研究大会・コンテスト等の参加推奨 ●校外での自主活動や各種プログラムへの参加推奨	●生徒は、他人を思いやる心を持って人に接することができる。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：87.9% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：96.0% 保護者：80.8% 教職員：86.5% 】 一昨年度 【 生徒：94.4% 保護者：90.0% 教職員：70.5% 】 ●生徒は、多様な価値観を認め、豊かな人間関係を築くことができる。 今年度 【 生徒：93.7% 保護者：85.1% 教職員：88.6% 】 昨年度 【 生徒：93.3% 保護者：86.2% 教職員：96.2% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：84.1% 】 ●生徒は、人権が保障され安心して生活できる学校である。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：84.0% 教職員：85.7% 】 昨年度 【 生徒：93.6% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 ●生徒は、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度 【 生徒：71.7% 保護者：62.8% 教職員：77.1% 】 昨年度 【 生徒：68.3% 保護者：60.4% 教職員：80.8% 】 一昨年度 【 生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9% 】	○いじめアンケートを各学期行い、いじめの早期発見に努めることができた。また、アンケート後にいじめもしくはいじめにつながるような言動に対する迅速な対応ができた。次年度も、学校全体の取組としていじめの防止及び発生時の対策にあたるため、いじめ防止対策委員会をしっかりと機能させたい。 ○人権教育に係るHRや講演会、研修会を年間計画に基づいて実施し、人権意識の醸成の一助となった。また、教職員向けの研修も実施し、教職員自身の人権感覚を向上させることができた。引き続き、生徒の実態把握に努め効果的な年間計画のもと取組を進めていきたい。 ○HRや学年会等での働きかけとともに、授業や学校行事を含むあらゆる教育活動において人権意識の醸成に努める。 ○今年度から週1回の学年会に保健部が参加して保健部と担任（学年会）と間で情報交換を行い、生徒の心身の状況把握と情報共有をすすめた。 ○生徒支援委員会・特別支援委員会を定期的に開催し、不登校等の問題を抱える生徒への支援に学校全体で取り組めた。またSCやSSWとの連携を図って対応することができた。 ○普段から生徒の様子を観察し、必要に応じて個別面談を行い、生徒の状況を把握した上で関係部署と連携しながら対応することに努めた。引き続き、丁寧な対応を行っていき	○相談のしやすさに関する生徒の肯定的評価の割合は年々増加して7割を超えているが、効果が上がっている理由について整理し、よりよくなるように活用するとよいのではないかと考える。 ○肯定的評価の割合が9割を越える項目も多いが、クラスがクラスとして学ぶ集団になっているかという視点を忘れず、学級経営のあり方等について話し合う機会があるとよいのではないかと。

重点指導目標 2 心理的安全性の確保

すべての生徒が、「自分が大切にされている」「失敗しても大丈夫」と実感できる生徒集団、教職員集団をつくる。

評価指標 【肯定的評価の割合 生徒：85.0% 保護者：69.1% 教職員:74.3%】

昨年度 【生徒：82.5% 保護者：66.8% 教職員:80.8%】
一昨年度【生徒：80.6% 保護者：67.3% 教職員:72.7%】

	令和7年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
人権意識の醸成	●人権教育HR ●人権講演会 ●人権教育研修 ●いじめアンケート ●いじめ防止対策委員会	●生徒は、他人を思いやる心を持って人に接することができる。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：87.9% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：96.0% 保護者：80.8% 教職員：86.5% 】 一昨年度 【 生徒：94.4% 保護者：90.0% 教職員：70.5% 】 ●生徒は、多様な価値観を認め、豊かな人間関係を築くことができる。 今年度 【 生徒：93.7% 保護者：85.1% 教職員：88.6% 】 昨年度 【 生徒：93.3% 保護者：86.2% 教職員：96.2% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：84.1% 】 ●生徒は、人権が保障され安心して生活できる学校である。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：84.0% 教職員：85.7% 】 昨年度 【 生徒：93.6% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 ●生徒は、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度 【 生徒：71.7% 保護者：62.8% 教職員：77.1% 】 昨年度 【 生徒：68.3% 保護者：60.4% 教職員：80.8% 】 一昨年度 【 生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9% 】	○いじめアンケートを各学期行い、いじめの早期発見に努めることができた。また、アンケート後にいじめもしくはいじめにつながるような言動に対する迅速な対応ができた。次年度も、学校全体の取組としていじめの防止及び発生時の対策にあたるため、いじめ防止対策委員会をしっかりと機能させたい。 ○人権教育に係るHRや講演会、研修会を年間計画に基づいて実施し、人権意識の醸成の一助となった。また、教職員向けの研修も実施し、教職員自身の人権感覚を向上させることができた。引き続き、生徒の実態把握に努め効果的な年間計画のもと取組を進めていきたい。 ○HRや学年会等での働きかけとともに、授業や学校行事を含むあらゆる教育活動において人権意識の醸成に努める。 ○今年度から週1回の学年会に保健部が参加して保健部と担任（学年会）と間で情報交換を行い、生徒の心身の状況把握と情報共有をすすめた。 ○生徒支援委員会・特別支援委員会を定期的に開催し、不登校等の問題を抱える生徒への支援に学校全体で取り組めた。またSCやSSWとの連携を図って対応することができた。 ○普段から生徒の様子を観察し、必要に応じて個別面談を行い、生徒の状況を把握した上で関係部署と連携しながら対応することに努めた。引き続き、丁寧な対応を行っていき	○相談のしやすさに関する生徒の肯定的評価の割合は年々増加して7割を超えているが、効果が上がっている理由について整理し、よりよくなるように活用するとよいのではないかと考える。 ○肯定的評価の割合が9割を越える項目も多いが、クラスがクラスとして学ぶ集団になっているかという視点を忘れず、学級経営のあり方等について話し合う機会があるとよいのではないかと。
生徒相談・特別支援の充実	●特別支援・生徒支援委員会 ●保健相談室と学年部の連携 ●スクールカウンセラー ●SSWとの連携 ●Qリアンケート ●インクルーシブ教育の推進	●生徒は、他人を思いやる心を持って人に接することができる。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：87.9% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：96.0% 保護者：80.8% 教職員：86.5% 】 一昨年度 【 生徒：94.4% 保護者：90.0% 教職員：70.5% 】 ●生徒は、多様な価値観を認め、豊かな人間関係を築くことができる。 今年度 【 生徒：93.7% 保護者：85.1% 教職員：88.6% 】 昨年度 【 生徒：93.3% 保護者：86.2% 教職員：96.2% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：84.1% 】 ●生徒は、人権が保障され安心して生活できる学校である。 今年度 【 生徒：95.6% 保護者：84.0% 教職員：85.7% 】 昨年度 【 生徒：93.6% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 一昨年度 【 生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：81.8% 】 ●生徒は、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度 【 生徒：71.7% 保護者：62.8% 教職員：77.1% 】 昨年度 【 生徒：68.3% 保護者：60.4% 教職員：80.8% 】 一昨年度 【 生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9% 】	○いじめアンケートを各学期行い、いじめの早期発見に努めることができた。また、アンケート後にいじめもしくはいじめにつながるような言動に対する迅速な対応ができた。次年度も、学校全体の取組としていじめの防止及び発生時の対策にあたるため、いじめ防止対策委員会をしっかりと機能させたい。 ○人権教育に係るHRや講演会、研修会を年間計画に基づいて実施し、人権意識の醸成の一助となった。また、教職員向けの研修も実施し、教職員自身の人権感覚を向上させることができた。引き続き、生徒の実態把握に努め効果的な年間計画のもと取組を進めていきたい。 ○HRや学年会等での働きかけとともに、授業や学校行事を含むあらゆる教育活動において人権意識の醸成に努める。 ○今年度から週1回の学年会に保健部が参加して保健部と担任（学年会）と間で情報交換を行い、生徒の心身の状況把握と情報共有をすすめた。 ○生徒支援委員会・特別支援委員会を定期的に開催し、不登校等の問題を抱える生徒への支援に学校全体で取り組めた。またSCやSSWとの連携を図って対応することができた。 ○普段から生徒の様子を観察し、必要に応じて個別面談を行い、生徒の状況を把握した上で関係部署と連携しながら対応することに努めた。引き続き、丁寧な対応を行っていき	○相談のしやすさに関する生徒の肯定的評価の割合は年々増加して7割を超えているが、効果が上がっている理由について整理し、よりよくなるように活用するとよいのではないかと考える。 ○肯定的評価の割合が9割を越える項目も多いが、クラスがクラスとして学ぶ集団になっているかという視点を忘れず、学級経営のあり方等について話し合う機会があるとよいのではないかと。

重点指導目標 3 爽やかな大人のふるまい

社会人として期待される挨拶、言葉遣いなどのふるまいを、あたりまえの習慣として自然に行うことができるようにする。

評価指標 【肯定的評価の割合 生徒：87.2% 保護者：72.3% 教職員:57.1%】

昨年度 【生徒：87.8% 保護者：68.8% 教職員:36.5%】
一昨年度【生徒：87.9% 保護者：67.0% 教職員:52.3%】

	令和7年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
基本的生活習慣の確立	●生活時間調査 ●担任による指導（面談等） ●情報モラル講座 ●薬物乱用防止講座 ●交通安全街頭指導	●生徒は、学校や社会のルールを守ることができる。 今年度 【 生徒：96.8% 保護者：90.9% 教職員：65.7% 】 昨年度 【 生徒：94.8% 保護者：89.1% 教職員：71.2% 】 一昨年度 【 生徒：94.4% 保護者：90.7% 教職員：70.5% 】 ●生徒は、他人との関係や集団生活をうまくやっていくことができる。 今年度 【 生徒：95.4% 保護者：90.3% 教職員：94.3% 】 昨年度 【 生徒：93.4% 保護者：88.8% 教職員：86.5% 】 一昨年度 【 生徒：93.3% 保護者：88.2% 教職員：84.1% 】 ●本校の生活指導は適切である。 (言葉遣い・ふるまい・交通マナー・身だしなみ) 今年度 【 生徒：89.1% 保護者：80.4% 教職員：62.9% 】 昨年度 【 生徒：90.1% 保護者：80.1% 教職員：92.3% 】 一昨年度 【 生徒：90.1% 保護者：82.7% 教職員：70.5% 】	△学校や社会のルールについて、全般的に生徒は守っているが、服装、身だしなみについて改善が必要である。全教員の共通理解に関し、年度当初のみならず、適宜行い、共通理解のもとで対応していきたい。また、様々な支援を必要とする生徒が少なからずおり、指導が困難な場合もある。生徒の内面の理解に努め、関係教員で情報共有した上で適切な指導を行っていきたい。 ○端末やスマートホンの使用方法について、全般的に生徒は守っているが、一部に指導が必要な生徒もいる。継続的に指導していく必要がある。 ○自転車マナー、保護者による送迎に関する苦情があった。引き続き、指導や注意喚起をしていきたい。	○ルール順守を含めた生徒指導全般に関する教員の肯定的評価の割合は6割台に下がっている。共通理解を図り、対応していく必要があると考える。

重点目標以外で評価を求めた項目

	令和7年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
情報発信の充実	●ホームページ ●緊急連絡メール ●Google Workspaceの活用 ●学校だより ●学校案内パンフレット	●本校の情報発信は適切である。（ホームページ、学校通信「あかやま」、学年通信、各種「紙」によるお知らせ、緊急メール、Google Classroom） 今年度 【 生徒：90.3% 保護者：82.8% 教職員：97.1% 】 昨年度 【 生徒：89.8% 保護者：82.8% 教職員：92.3% 】 一昨年度 【 生徒：84.5% 保護者：81.5% 教職員：84.1% 】	○学校ホームページについて、生徒の活動報告についてより充実させていきたい。 ○全校生徒がICT端末を持ったことで、Google Workspace for Educationを活用した情報提供が進んだ。より一層効果的な情報提供のカタチを作っていきたい。 ○学校紹介動画について見直しを行い、生徒や卒業生に協力してもらい、より学校の魅力が伝わる効果的なものとなったと考えている。さらに活用を図り、生徒募集につなげたい。	○アンケート結果を踏まえ、どのように対応するかということについて、生徒や保護者に見える形にしていく必要があると考える。
総合評価		●本校に入学して良かったと思う。（本校に入学させて良かったと思う。） 今年度 【 生徒：87.4% 保護者：89.9% 】 昨年度 【 生徒：86.9% 保護者：89.1% 】 一昨年度 【 生徒：87.7% 保護者：92.2% 】		